

平成二年度現代宗教研究所事業報告

1、教化研究会議

(1) 第二十三回中央教化研究会議

期 日 平成二年九月五日（水）・六日（木）

全体会

会場 朗峰会館
宿泊 朗峰会館

開催趣旨

① 中央教化研究会議は、広く法華經教化について

論議し、具体的方策を樹立することを目的に開催されます。

② 中央教化研究会議は、各管区の教区教研運営委員を中心として、管区・教区での教化活動の現状を話し合い、お題目総弘通運動推進に係わる諸問題を検討致します。

③ 各部会での討議を通して、教学の現代化、教育問題、青少年教化等に取り組み、問題の把握、解決、教材資料の作成をめざします。

④ 論談を通して、日蓮一門、地涌の菩薩としての意識をたかめます。

(1) 記念講演

「情報化社会と宗教」

野崎 茂（東京女子大学教授）

(2) 教区教研討論会

① 北陸教区レポート

② 中四国教化レポート

③ ディスカッション

「教区教研の問題点」

(3) 教化研修

「靈友会訪問研修」

部会

「教化学に取り組むに当り」

——その一案として——

第二寺檀部会

「檀家制度の良い点・悪い点」

第三法器養成部会

「二十一世紀を担う僧侶づくり」

第四世代別教化部会

「青・壯年教化をすすめるために」

第五教化伝道ネットワーク部会

「ニュースメディアの活用とネットワークづくり

に向けて」

第六社会問題部会

「現代人の病と日蓮聖人の教え」

第七立正平和部会

「環境問題と私たちの信仰生活」

開催方式

①教区の代表により前年度の教区教研会議の報告

を行い、意見交換をし、次年度開催へのステップとする。

②部会制により会議を行う。

③出席者は一部会を選び、七月二十日までに教務部宛に参加申し込みをする。参加申し込みと同時に、参加者宛に参加部会のテーマ・討議内容・参考資料などを送付する。

④出席者は、送付された参加部会のテーマ・討議内容・参考資料などをもとに準備をし、開催当日は各部会毎に討議をする。

⑤会議において討議されたものは、教区の教研会議の資料や今後の教化のハンドブックとして役立てるようまとめる。

⑥教化研究の一助として、他教団を訪問し、その教化方法等を研修する。

日 程

第一日目 九月五日（水）

受 付 九時～九時三十分

開 会 式 九時三十分～十時

記 念 講 演 十時～十二時

昼 食 十二時～十三時

教区教研討論会 十三時～十五時

部会別討議 十五時三十分～十七時三十分

夕食 十八時

第二日目 九月六日（木）

朝食 七時三十分

部会別討議 八時三十分～十時

全体会議 十時十五分～十一時十五分

イ. 部会報告

ロ. 靈友会訪問研修ガイドン

ス

閉会式 十一時十五分～十一時三十分

昼食 十一時三十分～十二時三十分

教化研修 十三時～十五時

解散十五時

参加者

宗務所長より推举委嘱された教区教研運営委員、

或いは各部会に関心があり継続して取り組める管

内教師（管区二名）。

(2) 教区教化研究会議開催
十教区にて開催した。開催日時・テーマは次の通り

である。

(1) 第十四回中四国教区教化研究会議

六月十四・十五日 高知市オリエントホテル高知

にて開催

テーマ「お題目総弘通と信行会活動の新しい展開

をめざして」

研究主題「若い信徒の育成と教化方法について」

(2) 第十二回九州教区教化研究会議

六月二十六日 福岡市日蓮聖人銅像護持教会にて

開催

テーマ「九州独自のお題目総弘通運動を推進しよ

う」

(3) 第二十回近畿教区教化研究会議

七月四日 舞鶴市妙法寺にて開催

テーマ「お題目総弘通運動を推進しよう」

(4) 第十四回北海道教区教化研究会議

八月二十四日 中川郡妙経寺にて開催

テーマ「寺院のネットワークづくりについて」

「情報化社会に於ける宗教・寺院の在り方」

(ホ) 第七回北陸教区教化研究会議

十月二十三・二十四日 鯖江市サバエシティーホ

テルにて開催

テーマ 「めざせ！ 点から線・面へとお題目の輪

を」

(ヘ) 第十四回中部教区教化研究会議

十一月二十一日 名古屋市弥生会館にて開催

テーマ 「お題目総弘通運動の現状とその問題点」

(ト) 第九回東北教区教化研究会議

平成三年一月十八・十九日 秋田市秋田ニューグ

ランドホテルにて開催

テーマ 「生命の水・身近な環境問題について」

「地球環境破壊と生態系の混乱」

「二十一世紀 墓地の行方とその背景にあ

るもの」

(チ) 第十六回京浜教区教化研究会議

平成三年二月二十二日 港区虎ノ門パストラルに

て開催

テーマ 「応えよう！ 教化の場から緊急発信——

あなたは現代が見えますか——」

(リ) 第十五回山静教区教化研究会議

平成三年二月二十八日 清水市マリベール平安閣

にて開催

テーマ 「われわれをとりまく社会問題」

(ヌ) 第八回千葉県教化研究会議

平成三年三月二十五日 茂原市平安閣にて開催

テーマ 「——次代へつなげる二〇〇一年——伝道

宗門の蘇生をめざして」

2、研究・調査活動

(イ) 新宗教研究・寺院調査・お題目総弘通研究の各プロ

ジェクトにおいて、それぞれ調査・研究を進めた。

(イ) 新宗教研究プロジェクト (片野博義・山口裕光・

植田觀樹・西片元證・勝呂昌信・波澤光紀各研究

員)

前年度より作業を進めて来た新宗教についての

ハンドブックを作成し発行した。さらに、今までに取り上げなかつた新宗教教団についても調査研究を行うために、念法真教などの十教団をピック

アップし、各教団ごとに沿革・教義・組織・布教体系・活動・本宗との相違など、十項目にわたり基礎資料を作成した。

(ロ) 寺院調査プロジェクト（小川英爾嘱託・渡部公容・高橋謙祐・望月兼雄各研究員）

前年度に引き続き、都市部・人口過密地域における宗教事情と宗教活動・また都市部の寺院が抱えている墓地問題や檀信徒教化などに関する諸問題について調査研究を行うために、その問題の所在と調査研究の方法などの準備を進めるとともに、予備調査を実施した。

(ハ) お題目総弘通運動研究プロジェクト（古河良皓・大島啓祐・伊藤立教・田島辨正・難波壽貴各研究員）

員)

宗門運動についての調査研究の一環として、本

宗からは日蓮聖人第七百遠忌報恩奉行、他教団からは浄土真宗本願寺派の基幹運動としての門信徒会運動と同朋運動について、その期間・目的・運動内容・組織・財政・成果・課題を各項目ごとに

まとめた。また、法華系教団の中から本門仏立宗を選び、昨年度末に東京渋谷乗泉寺に訪問調査を行った。その信仰活動については、調査結果とともに各項目ごとにまとめ直し、基本資料として報告書を作成した。さらに、年来続けて来た本宗の戦後の宗門運動と他教団の宗門運動についての調査研究の総括をし、本宗のこれから宗門運動はどうあるべきか、そのあり方について提言していくために、各調査項目ごとにその準備を行った。

(イ) 平成二年三月二十七日、第十四回教化学研究集会を大阪市雲雷寺にて開催した。

研究講座

パネルディスカッション

「現代社会における教化学の取り組むべき課題」

パネラー 石川教張（現宗研所長）

新間智照（兵庫県）

井本学雄（兵庫県）

研究発表

ついて

龍沢泰孝（現宗研嘱託）

「現代の師弟関係を考える」福山賢修（滋賀県）

「弘經要義考——優陀那日輝和上の教化学」

「宗門先師に聴く」

南條孝仁（大阪府）

三原正資（現宗研嘱託）

(口) 五月二十九日、第十五回教化学研究集会を日蓮

宗示務院にて開催した。

「宗教と広告」石川哲也（協同広告株式会社
営業開発室長）

「現代祈禱の原点」宮川了篤（千葉県）

(3) 研究セミナー・研究懇話会・座談会の開催

(4) 平成二年三月三十日、現代宗教研究セミナーを

宗務院にて開催した。今回は、神奈川県顯妙寺修徒大野宣寿師より、「天皇とは何か——大嘗祭・即位の礼を中心——」と題して講演をしていた
だいた。

(4) 研究発表

(1) 第四十三回日蓮宗教学研究発表大会にて研究発

表を行った。

「小川泰堂の摂折論について——『摂折弁惑論』

を中心に——」

石川教張（現宗研所長）

「CD-ROM版『日蓮聖人遺文システム』に

(6) 現宗研所蔵図書のコンピュータ管理のための蔵書

整理とデータ作成を行った。

3、出版・資料収集

(1) 「現代宗教研究」第二十五号を編集し、全寺院に配布した。

(2) 教団史研究資料の一つとして、「平成元年度日蓮宗年表」を作成し、配布した。

(3) 新宗教関係資料を収集し、保管した。

(4) 各種伝道教化に関する資料を収集し、保管した。

(5) 伝道・教化・研究に必要な図書を購入した。

(6) 現宗研所蔵図書のコンピュータ管理のための蔵書

4、研究交流・会議

- (1) 平成三年三月十二日、第五回地域教化センター連絡会議を開き、中央教研の決議に沿って、日蓮宗教化センター設置を推進するとともに、意見・関係資料・発行物を交換し、お互いの機能の充実を図った。
- (2) 真言宗智山派智山伝法院教化研究室主催「各宗教化関係研究機関連絡協議会」(平成二年一月二十七日)に参加し、テーマ「同和問題について」——研究状況と宗団の動き——のもと各宗の報告、意見交換をし、あわせて各宗団における教化活動の問題点と、研究所、教化研究の在り方、将来の展望などが話し合われた。また、各研究所発行の関係資料を交換して研究交流を深めた。
- (3) 顧問会議・嘱託会議・研究員会議を開き、研究所並びに研究の在り方などについて討議をし、内容の充実に努めた。
- (4) 教区・管区主催の各種研究会議・研究会などに出席した。